重度かつ慢性精神疾患患者への地域移行支援

関連するSDGsの国際目標



人間看護学部　人間看護学科　　准教授　　川田　陽子

研究分野：精神看護　専門看護師実践
Cognitive　Adaptation　Training（CAT）
重度かつ慢性精神疾患

研究者は精神看護専門看護師として、精神科医療の現場で困難患者への看護実践、看護師への教育・相談、倫理調整、多職種連携チームの運営を行ってきました。そのような活動の中で、精神保健医療福祉の最も大きな課題と感じていたのが精神科長期入院患者の存在です。日本の精神科入院患者数は世界一であり、2019年10月には国連・障害者権利委員会から重大な人権侵害であると注意勧告を受けています。これを解消しようと、国の施策によって施設収容型医療から地域医療中心へとの急な方向転換が図られ、すべての精神科病院で長期入院患者への退院支援が求められることになりました。しかし、退院が難しい対象はいわゆる重度かつ慢性疾患患者と呼ばれる方々で、臨床では様々な対応がなされているにもかかわらず、長期入院あるいは入退院を繰り返す中で、未だこの方々の地域定着が難しいのが現状です。この現状に対して、精神科看護師が介入し、かつ効果的だと考えられる技法についての研究を続けています。

■精神科病院における退院支援看護実践について

精神科長期入院患者への退院支援における看護実践の内容は、患者の準備状態に応じていくつかの段階に分かれています。段階に応じた看護実践によって、長期入院患者の地域移行が進んでいきますが、段階が進むにつれ、患者の家族からの協力や他職種連携が必要になっていきます。

■精神科看護スペシャリストによる退院支援の実際について

一般の看護師は、退院調整には欠かせない、患者の家族とのかかわりや他職種連携を苦手と感じていることがわかっています。このような中、精神科認定看護師や精神看護専門看護師がリーダーシップをとって、困難患者の退院支援にあたっていますが、その活動はあまり評価されていません。そのような活動を可視化し、一般科と同じような退院調整看護師制度の構築を目指した研究をしています。

■CAT-Cognitive　Adaptation　Training　(認知適応トレーニング)-を用いた重度かつ慢性精神疾患患者への地域移行・地域定着を目指した看護に関する研究

CATはテキサス大学健康科学センター精神科のDawn I. Velligan, ら(2018)によって標準化された統合失調症、双極症等の重度かつ慢性精神疾患患者を対象とした認知機能障害に焦点を当てた心理社会的リハビリテーションにおける介入技法です。研究者はこの技法を学びに渡米しトレーニングを受けています。CATを元に日本の現状に合わせた効果的な介入方法が開発されれば，看護師による地域移行・地域定着における標準的な看護ケアの確立に寄与するものであると考え、現在その実装にむけて研究を続けています。